

1. 地域概要

計画名	川越市におけるオーバーツーリズム対策事業
対象エリア	川越市観光資源集中エリア
実施主体	川越市（事務局：産業観光部 観光課）
年間観光客入込数	約719万人（令和5年）
年間延べ宿泊者数	約58万人（宿泊率：8.1%）
主な観光資源	蔵造りの町並み、時の鐘、菓子屋横丁、川越城本丸御殿、川越氷川神社、喜多院、伊佐沼



時の鐘



喜多院

● 観光ビジョン

「住んでよし・訪れてよし」の持続可能な観光都市の実現

- 観光振興による経済的・社会文化的効果と住民生活の維持向上の両立を目指す

● 推進体制（協議の場）

川越市オーバーツーリズム対策懇談会

- 本市におけるオーバーツーリズム対策事業の推進について意見を聴くため、川越市オーバーツーリズム対策懇談会を実施

行政機関	事業者	住民関係者
国土交通省 関東運輸局	東日本旅客鉄道 株式会社	川越町並み委員会
埼玉県観光課	東武鉄道株式会社	川越一番街商業 協同組合
	西武鉄道株式会社	川越菓子屋横丁会
	東武バスウエスト 株式会社	川越名店街
	西武バス株式会社	仲町商店街
	イーグルバス株式会社	元町一丁目商和会
	（公社）小江戸 川越観光協会	大正浪漫夢通り 商店街振興組合
	（一社）DMO川越	
	川越商工会議所	
	株式会社まちづくり川越	

2. 課題

● 主な課題

	主な現状・問題点	影響を受けている主な対象
1. 一番街周辺への観光客の一極集中	- 蔵造りの町並みが広がる一番街は、主要な観光資源が集中し、多くの観光客が訪れる一方、複数のバス路線が通る幹線道路かつ生活道路となっている - 限られたエリアと時間に観光客が集中することで、歩行空間の混雑や車両との錯綜による危険等が生じ、観光客から不満が挙がっているほか、住民の通行やバスの運行等に支障が生じている	住民 観光客 公共交通事業者
2. 観光客のマナー違反	- 一番街を含む北部市街地は、人口集中地域として住民生活の場ともなっている - 観光客による私有地への侵入やごみのポイ捨て等のマナー問題が生じ、地域住民から不満が挙がっている - 歩き食べによるごみのポイ捨て行為等により、道路汚損の景観悪化が発生	住民 観光資源

1. 人と車の錯綜



- 限られたエリアと時間に観光客が集中することで、歩行者の車道へのはみ出しが発生するなど、人と車が錯綜する危険な状況となっている

2. ごみのポイ捨て等の迷惑行為



- ごみのポイ捨て等、一部の観光客の迷惑行為によって、観光地周辺に住んでいる住民の生活に悪影響が出ている

3. 背景・要因

● 主な課題

主な背景・要因

- | | |
|-------------------------|--|
| 1. 首都圏からのアクセスの良さ | ・ 首都圏からのアクセスが良く、日帰り観光客が多いため、限られたエリアと時間に観光客が集中している |
| 2. 観光地と住民生活エリアの近接性 | ・ 主要観光エリアである一番街周辺は、複数のバス路線が通る幹線道路かつ生活道路であり、一番街を含む北部市街地は、人口集中地域として住民生活の場ともなっている
・ 江戸時代からの狭隘な道路構造が概ね維持される中、歴史的建造物が多く、道路拡幅や交差点改良が困難である |
| 3. 一番街周辺以外の観光スポットの認知度不足 | ・ 一番街周辺は多くの観光客が訪れる一方、「喜多院」「川越城本丸御殿」「川越氷川神社」や「昭和の街」など、周辺の徒歩圏内にある観光スポットは、認知度不足や歩行環境が悪いなどの要因により、観光客の回遊が図られていない |
| 4. マナーの周知徹底不足 | ・ 歩行者の車道へのはみ出しや乱横断、ごみのポイ捨て等がみられ、マナーの周知徹底がなされていない |

1.川越市の位置

- ・ 都心から約30kmに位置し、鉄道が3路線乗り入れて交通便利性が高い
- ・ 日帰り客は気軽に訪れて帰りやすく、他都市（東京等）への移動も容易な点が宿泊を妨げる要因にもなっている



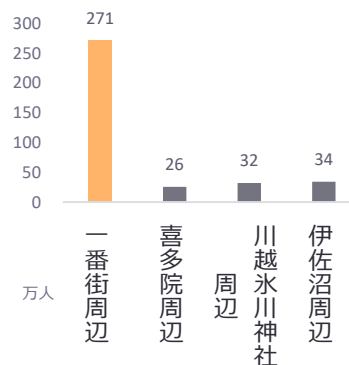
2.幹線道路かつ生活道路としての機能を有する一番街

- ・ 川越駅・本川越駅から一番街を通過する路線バスの1日の便数は往復300本以上
- ・ 幹線道路かつ住民の重要な生活道路としての機能を有している



3.主要エリア別の観光客数

- ・ 一番街（蔵造りの町並み）周辺とその他の主要エリアの観光客数は10倍近くの差が生じている
- ・ 喜多院周辺及び川越氷川神社周辺は蔵造りの町並みから徒歩圏内であるにも関わらず、偏りが顕著となっている



4.道路を乱横断する観光客

- ・ 蔵造りの町並みは西側、東側それぞれに観光客向けの店舗が立地し、信号及び横断歩道の数が限られている
- ・ 逆側の店舗へ移動するために乱横断する様子がたびたび見受けられる



4. 対策の概要

一番街周辺への観光客の一極集中、交通渋滞の発生、観光客のマナー違反等を改善するため計11個の対策事業を実施

- 観光客の一極集中を抑制するため、多様な観光拠点への誘客促進や混雑解消を図る取組みを実施
- 交通円滑化を図るため、調査分析（交通規制やパークアンドライドの検討、無電柱化等）やバス停・駐車場など受入環境の整備を実施
- マナー違反対策として、ごみのポイ捨て禁止を図る取組みやマナー啓発動画の作成を実施



調査分析

- | | |
|--------------|--|
| 取組み内容 | ①適切な交通規制等のあり方の検討 |
| | ・安全安心な歩行環境の確保と生活環境・生活交通の保全を目指し、交通量調査とそれに基づく交通シミュレーションの実施、地域住民等へのアンケート調査を行い、データや地域の意向を踏まえた適切な交通規制等のあり方を検討する |
| 取組み内容 | ②パークアンドライド事業の拡張性等に関する調査検討 |
| | ・北部市街地内の駐車場の立地・利用状況を調査するとともに、ナンバープレート調査により観光車両の主な流入経路や台数を把握した上で、既存駐車場やバス路線を活用したパーク＆ライドの導入可能性について調査・検討する |
| 取組み内容 | ③無電柱化に関する調査 |
| | ・歩行環境の改善による観光客の分散化を目指し、中央通り線の仲町交差点から連雀町交差点（昭和の街）の無電柱化のための調査を実施し、無電柱化推進に係る計画案を作成する |

受入環境の整備・増強

- | | |
|--------------|---|
| 取組み内容 | ④公共交通の利用促進(スマートバス停設置支援) |
| | ・北部市街地周辺の観光客が利用する主要なバス停において、バス事業者が、バスロケーション機能や多言語表示機能を搭載するスマートバス停を設置することに対し、事業費の一部を補助する |
| 取組み内容 | ⑤駐車場の混雑・満空状況の情報環境整備 |
| | ・観光客の利用率が高い市庁舎北側・南側駐車場及び郊外型駐車場において、混雑や満空状況を発信、収集するシステムを整備する。デジタルマップ等でリアルタイムな情報として観光客へ提供する |
| 取組み内容 | ⑥滞留スペースの確保(伝建調査) |
| | ・伝建地区内における広場や中庭、通り抜けルート等を活用した観光客の滞留空間の確保に向けた調査と効果検証及び実証実験を行う |

マナー啓発

- | | |
|--------------|---|
| 取組み内容 | ⑦マナー啓発動画・掲出物等の作成及び周知 |
| | ・観光客のマナー改善を図るため、市内観光施設、北部市街地周辺部の商店街組合加盟店、市内3観光案内所と連携し、マナー啓発の掲出物等を掲示する |
| 取組み内容 | ⑧ごみポイ捨て対策の支援によるまちの環境美化 |
| | ・ごみポイ捨て防止対策に関連する事業（広告付きごみ箱の設置等）を実施する際の費用を一部補助し、まちの環境美化を図る |

4. 対策の概要

一番街周辺への観光客の一極集中、交通渋滞の発生、観光客のマナー違反等を改善するため計11個の対策事業を実施

- 観光客の一極集中を抑制するため、多様な観光拠点への誘客促進や混雑解消を図る取組みを実施
- 交通円滑化を図るため、調査分析（交通規制やパークアンドライドの検討、無電柱化等）やバス停・駐車場など受入環境の整備を実施
- マナー違反对策として、ごみのポイ捨て禁止を図る取組みやマナー啓発動画の作成を実施



観光客の分散・平準化

取組み
内容

⑨多様な観光拠点への誘客促進

- 日中の観光客を分散するため、喜多院周辺地域、川越城周辺地域、その他郊外地域でARのデジタル技術を活用したスタンプラリーやイベントを実施し、地域一体となった誘客促進を図る

取組み
内容

⑩混雑緩和、マナー向上に向けた観光情報の一元的な発信

- 小江戸川越WEBにおける交通情報（駐車場満空情報等）やマナー啓発等に係る掲載コンテンツを充実させ、観光客向けに一元的な情報発信を実施することで混雑緩和、マナー向上を目指す

受入環境の整備・増強

取組み
内容

⑪行列・混雑の解消支援(整理券システム等)

- テイクアウト品の購入または店内飲食待ちの行列が歩道上に頻繁に発生する飲食店舗に対し、交通の安全性の観点から、整理券システムを導入する際の費用を一部補助し、道路上の混雑緩和を図る

5. 主な取組み（詳細）

課題

一番街周辺に観光客が集中し、人と車の錯綜が発生

取組み

適切な交通規制等のあり方の検討

- 実施期間：令和6年9月～令和7年2月
- 実施主体：川越市

事業内容

■ 適切な交通規制等のあり方の検討

➤ 交通量調査及び交通シミュレーションの実施

- 交通量調査を実施し、当該結果に基づく交通シミュレーションにより、交通規制時の周辺交通への影響や車両流入抑制対策等による効果を算出
- 交通シミュレーションは東京大学の本間准教授に依頼

➤ アンケート調査の実施

- 交通対策等に係る住民や関係者に対するアンケートを実施することで、客観的データや地域の意向を踏まえた北部市街地における適切な交通のあり方（交通規制及び交通円滑化策）を協議・検討

交通量調査

主要交差点22箇所の自動車交通量及び3路線の歩行者交通量を調査

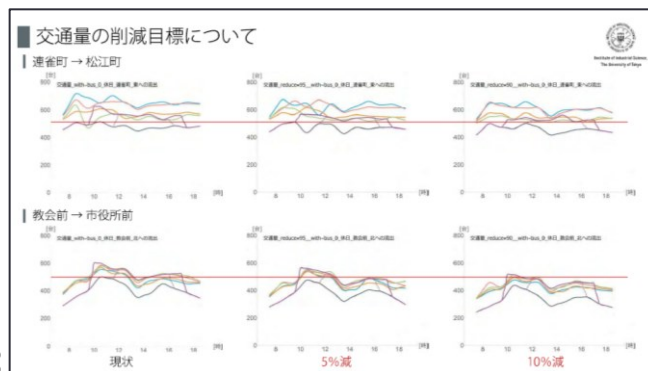


⑪ ⑫は、一方通行出口の交通量のみ計測

交通シミュレーション

調査結果をもとに交通シミュレーションを実施。交通規制時の影響や車両流入抑制の効果等を分析（以下分析結果の主なポイント）

- どの交通規制案でも特定個所に相応の混雑が発生
- バスの迂回は交通量の観点から効果は限定的
- 歩行者天国を実施する場合、10%程度交通量を削減することで規制前と同水準を維持可能



アンケート調査

- 北部市街地内にお住まいの全世帯（約7,300件）や商店街、駐車場関係者等（約130件）に対し、交通対策等に関するアンケート調査を実施
- 北部市街地周辺の住民に対して、現在の交通環境への所感や検討中である一方通行や歩行者天国等の交通規制案とそれに伴う路線バス迂回運行に対する意見を確認

【アンケート内容（一部抜粋）】

- 一番街は、歩行者や車両にとって安全な交通環境だと思うか
- 安全対策として、交通規制を実施することをどう思うか
- 安全な好通環境を実現するには、どの案が望ましいか
- 歩行者天国を実施する場合は、春・夏のまつりや川越まつり、小江戸マラソン（合計6日間）を含め、年間どのぐらいの日数であれば受け入れやすいか
- 歩行者天国を実施する場合はどの時間帯が受け入れやすいか

成果及び今後に向けて

令和6年度事業の目標

- 交通規制等の交通対策実施に向けた手法、範囲、時期等を検討し、次年度以降の交通対策へ繋げる

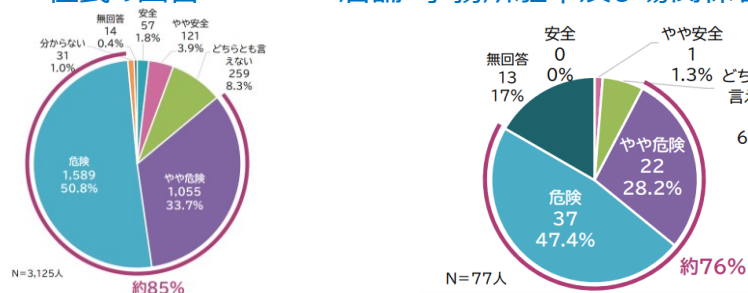
事業の成果／目標の検証結果

- 客観的データや地域の意向を踏まえた北部市街地における適切な交通のあり方を検討することが出来た
 - 主要交差点22箇所の交通量調査を実施し、結果に基づく交通シミュレーションにより交通規制時の周辺交通への影響や効果等を算出
 - 交通対策等に係る住民や関係者に対するアンケートを実施

成果詳細

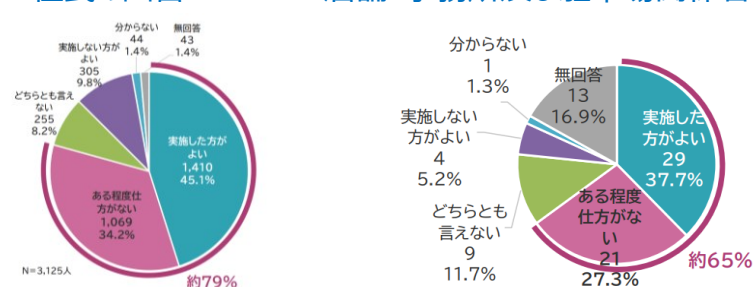
【アンケート結果（一部抜粋）】

Q.1 現在の一番街は、歩行者や車両にとって安全な交通環境だと思うか
 住民の回答 店舗・事務所駐車及び場関係者の回答



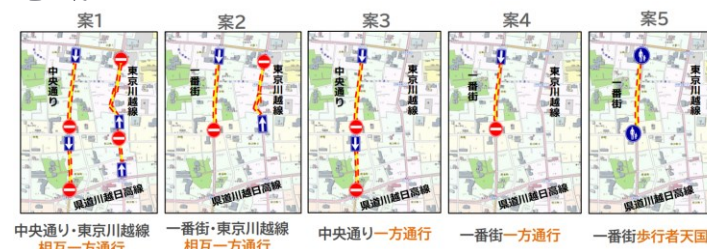
多くの人が一番街の交通環境に対する危険性を感じている状況

Q.2 安全対策として、交通規制を実施することについてどう思うか
 住民の回答 店舗・事務所及び駐車場関係者の回答

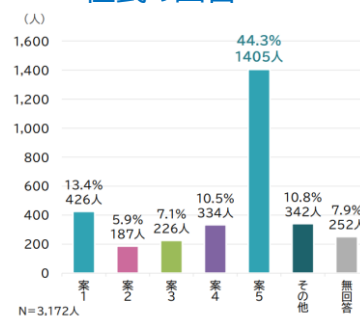


交通規制については比較的肯定的な傾向

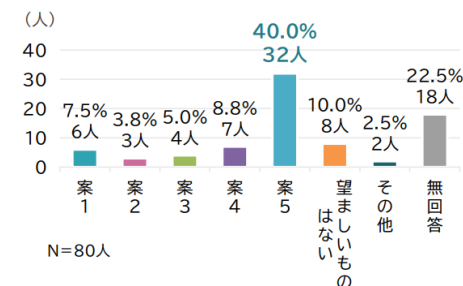
Q.3 交通対策案について、安全な交通環境を実現するためには、どの案が望ましいと思うか



住民の回答



店舗・事務所及び駐車場関係者の回答



案5（仲町交差点～札の辻交差点を歩行者天国にする案）が最も多く選択

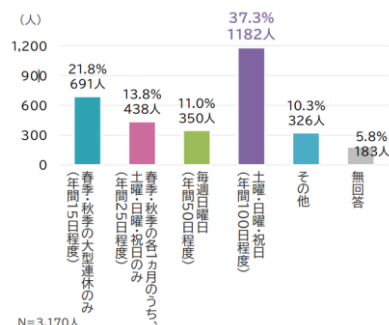
成果及び今後に向けて

成果詳細

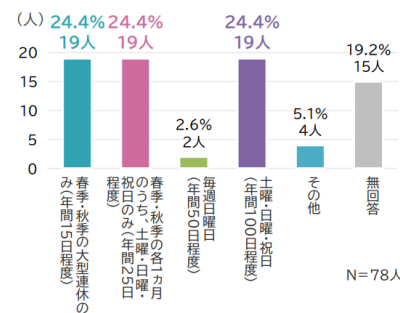
【アンケート結果（一部抜粋）】

Q.4 歩行者天国を実施する場合は、春・夏のまつりや川越まつり等（合計6日間）を含め、年間どのぐらいの日数であれば受け入れやすいか

住民の回答

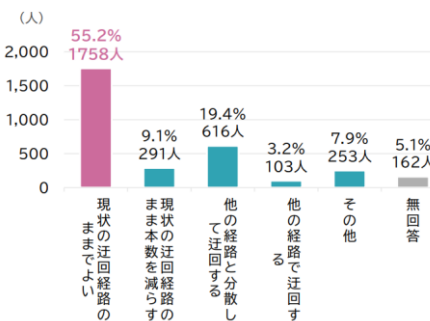


店舗・事務所及び駐車場関係者の回答



住民向けアンケートでは、「土曜・日曜・祝日（年間100日程）」が最も多く選択されたが、店舗・事務所及び駐車場関係者向けアンケートでは、年間15日程・年間25日程・年間100日程の回答が同程度

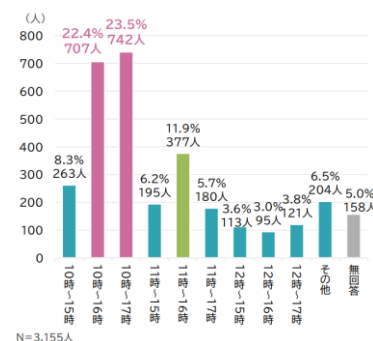
Q.6交通対策案による交通規制を実施した場合、路線バスの迂回運行を行う必要があるが、路線バスの迂回運行については、次のうちどれが重要だと思うか（住民アンケート）



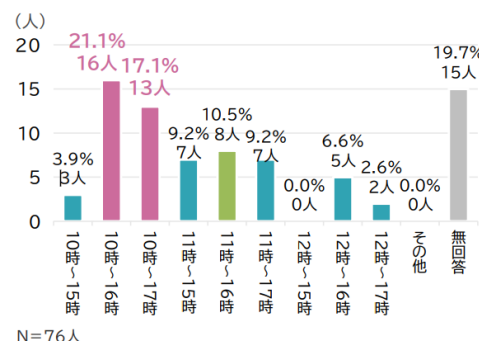
半数強が「現状の迂回経路のままでよい」と回答

Q.5 歩行者天国を実施する場合は、どの時間帯が受け入れやすいか

住民の回答

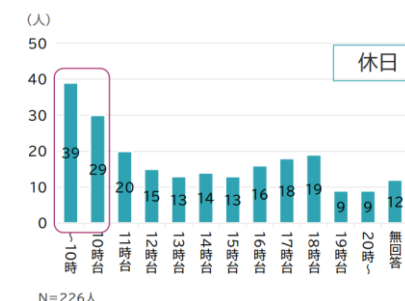
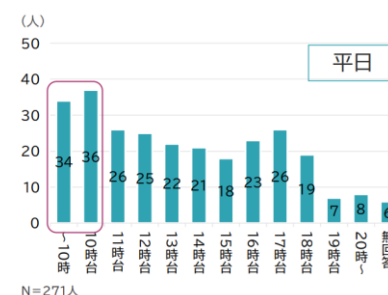


店舗・事務所及び駐車場関係者の回答



最も多く選択された時間帯は、「10時～17時」または「10時～16時」、次いで「11時～16時」

Q.7 駐車場や搬入・搬出に伴う車両の出入りの主な時間帯はいつか（店舗・事務所及び駐車場関係者アンケート）



平日、休日ともに～11時が車両の出入りが多い結果

成果詳細

交通検討の在り方検討の結果

【アンケート】

- 一番街の交通状況について、約85%が危険な状況と認識
- **交通規制については比較的肯定的な傾向**
- 交通対策案としては**約44%が歩行者天国案を選択**
- 歩行者天国の**実施日は約37%が年間度通じて土・日・祝を選択**
- 規制の影響を直接受けるエリアの方はより短い日数を選ぶ傾向

【シュミレーション】

- どの交通規制案でも特定個所に相応の混雑が発生
- バスの迂回は交通量の観点から効果は限定的
- 歩行者天国を実施する場合、**10%程度交通量を削減することで規制前と同水準を維持可能**



次年度以降の取り組み：歩行者天国の実施

- 調査結果を踏まえ、令和7年5月及び11月の連休時（計6日間）に、一番街において歩行者天国を試行的に実施することで、交通規制による影響や効果を把握する

5. 主な取組み（詳細）

課題

観光客によるごみのポイ捨て

取組み

ごみポイ捨て防止対策の支援によるまちの環境美化

- ・ 実施期間：令和6年9月～令和7年2月
- ・ 実施主体：川越市

事業内容

■ ごみのポイ捨て防止対策の支援によるまちの環境美化

- ごみポイ捨て防止対策に関連する事業（広告付きごみ箱の設置等）を実施する際の費用を一部補助し、まちの環境美化を図る

■ ごみに関するアンケート調査

- 観光客に対して川越市のごみに関するアンケート調査を実施
- 調査項目：
 - ・ 観光をしていて、まちなかにポイ捨てごみが多いと感じたか
 - ・ 観光をしていて、ごみ（になるもの）が発生したか
 - ・ 観光をしていて、まちなかにごみ箱があってほしいと感じたか

スマートごみ箱設置
＜鍛冶町広場＞



スマートごみ箱設置
＜川越市産業観光館 小江戸蔵里＞



商店街等の自主的な取組みの例
＜清掃用具の購入＞



成果及び今後に向けて

令和6年度事業の目標

- 商店街等が実施するごみポイ捨て防止対策に関連する事業（広告付きごみ箱の設置等）を実施する際、費用の一部補助し、まちの環境美化を図る

事業の成果／目標の検証結果

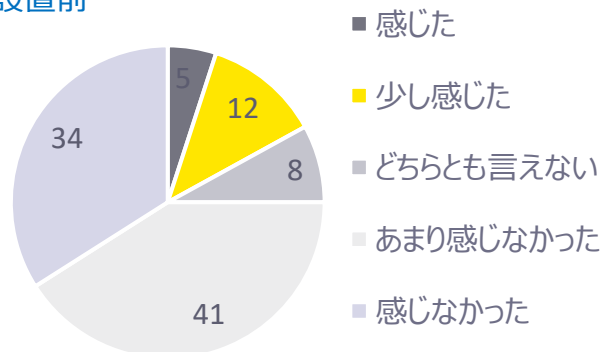
- まちの環境美化に関して一定程度改善が見られた
- まちの美化に関する観光客向けアンケート調査
「観光をしていて、まちなかにごみ箱があってほしいと感じましたか」：
69%⇒**30%に減少**（設置したことによる設置希望回答者の減少と推測）
※「感じた」「少し感じた」と回答した割合

成果詳細

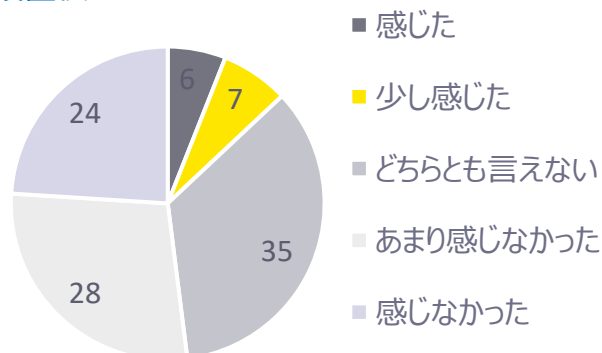
【アンケート結果】

Q.1 観光をしていて、まちなかにポイ捨てごみが多いと感じたか

設置前

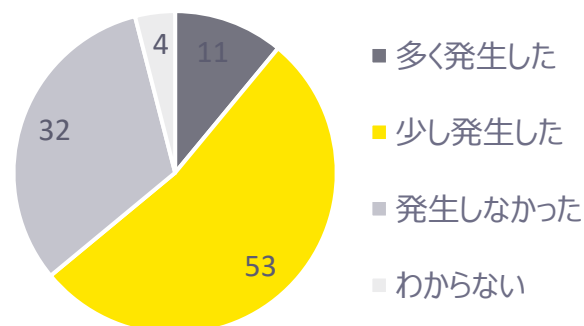


設置後

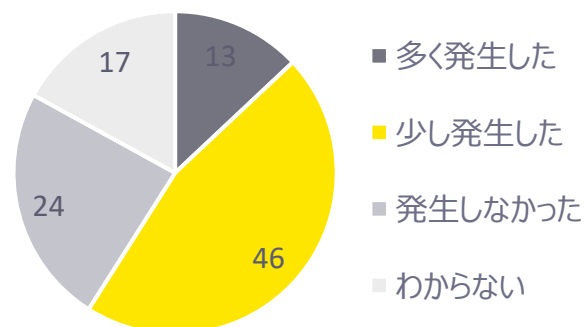


Q.2 観光をしていて、ごみ（になるもの）が発生したか

設置前

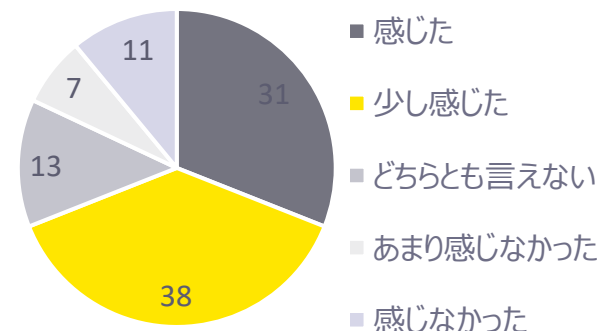


設置後

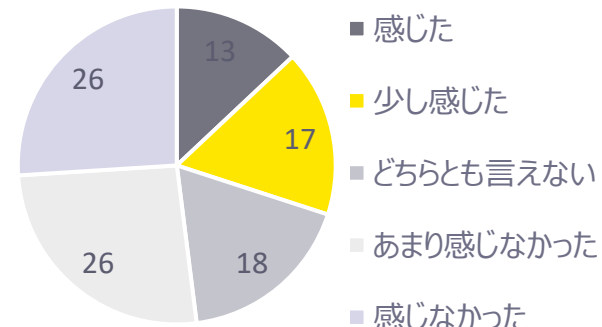


Q.3 観光をしていて、まちなかにごみ箱があってほしいと感じたか

設置前



設置後



令和6年度取り組みから見てきた課題

1

地域全体での考え方の共有

- ・ 地域の住民・事業者等との協議や観光関連団体との連携が十分でなく、地域のあり方や対策の方向性など、全体的な考え方が共有されていない

2

中長期の対策の必要性

- ・ 対策の実施から日が浅いこともあり、効果がわかりにくかった
- ・ ハード対策など具体的な取組実施には更なる時間を要するため、中長期での取り組みが必要

3

計画策定の必要性

- ・ 現在の観光振興計画はオーバーツーリズム対策に係る内容が不足しており、新たな計画を策定する必要性がある

令和7年度以降に取り組むべきと考えること

1

地域一体での継続的な取り組み

- ・ 住民・商店街など、関係者が共通認識の下、地域一体で取り組んでいく
- ・ 令和6年度の実施結果を踏まえ改善を図りつつ、地域での意見も聞きながら、取り組みを継続する。
- ・ オーバーツーリズム対策の方向性を包含した観光振興計画を策定する

2

交通円滑化の推進

- ・ アンケート調査の結果を踏まえ、令和7年5月及び11月の連休時（計6日間）に、一番街において歩行者天国を試行的に実施することで、交通規制による影響や効果を把握する

3

観光環境の改善

- ・ 広告付きごみ箱の設置、マナー啓発、観光客の分散化施策など、継続して効果が発現されるよう注視していく必要がある
- ・ 効果検証により、次善策の検討を進める